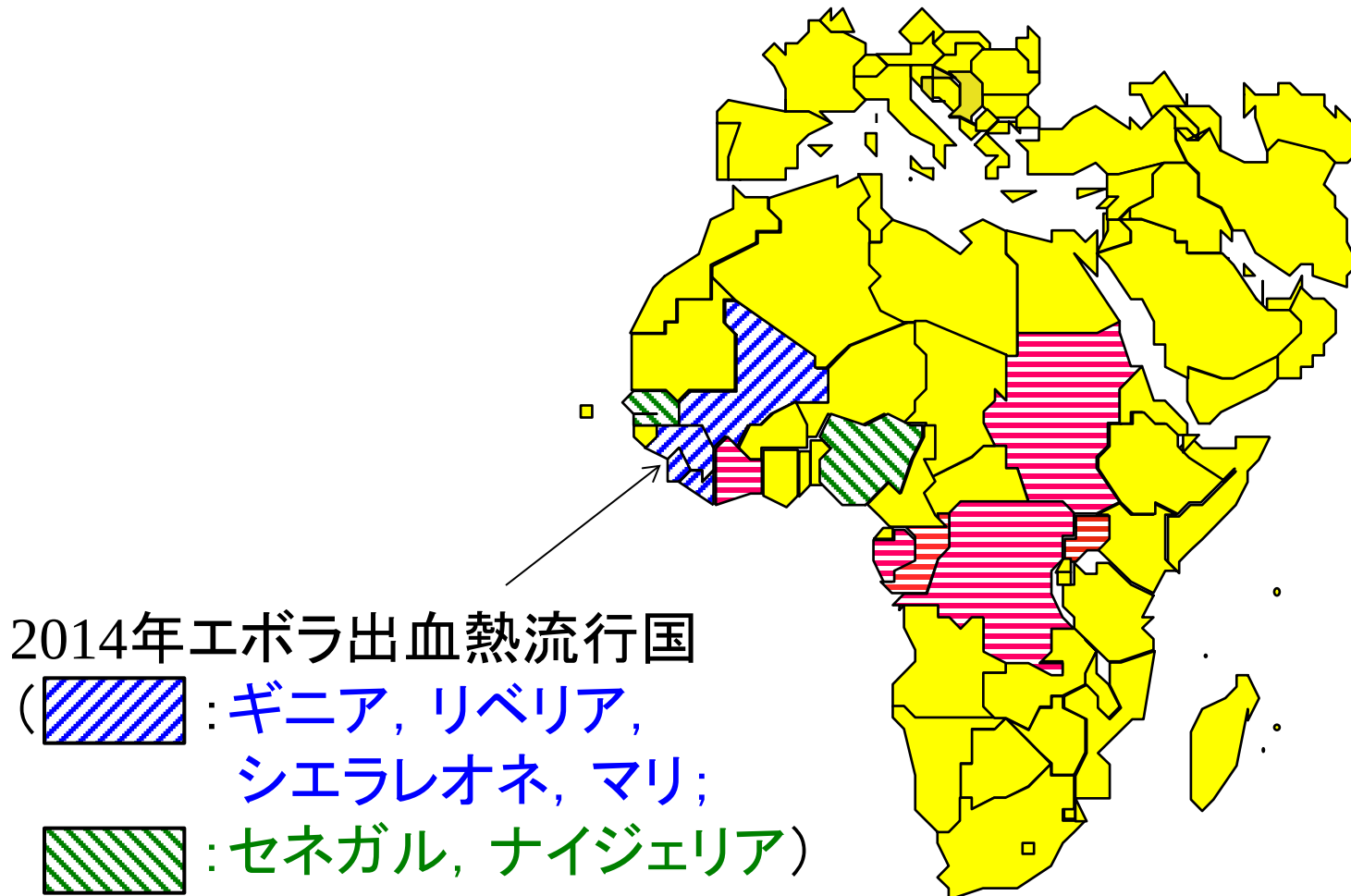


⑥ エボラ出血熱の流行と 国立感染症研究所の 対応について

エボラウイルス(フィロウィルス科)



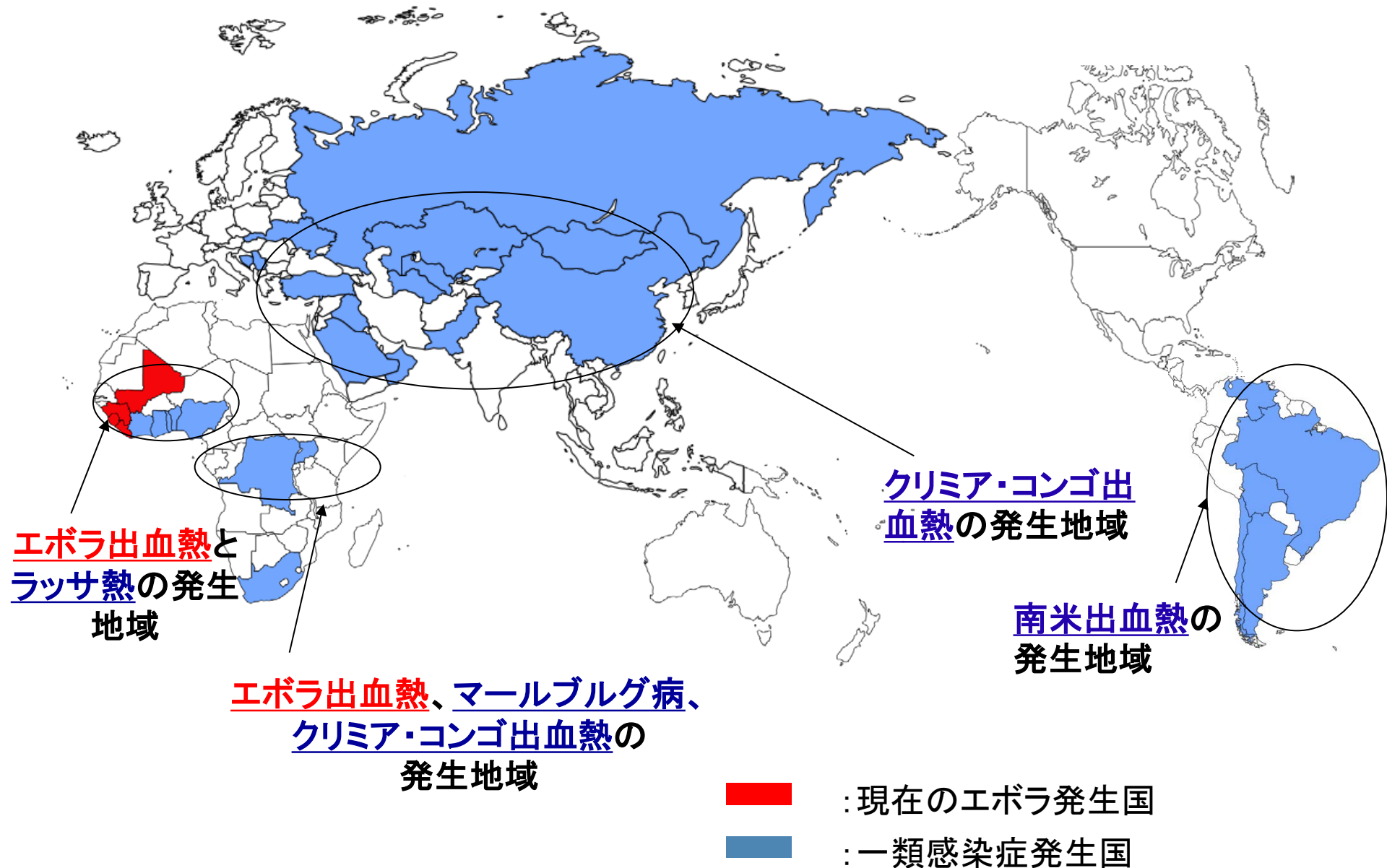
2014年西アフリカにおける エボラ出血熱の流行国



2014-2015年西アフリカにおける エボラ出血熱流行の特徴

- WHOの発表(2015年1月14日付け)によると、3カ国(ギニア, リベリア, シエラレオネで疑い例を含めて累積患者数が 21,296人(うち死亡者 8,429人)に達している。
- 現在も流行は続いている。隣国マリ、セネガル、そして、ナイジェリアでも患者発生、散発的流行が認められた。
- 米国, イギリスで輸入感染事例の発生した。
- 米国, スペインで院内感染事故が発生した。

エボラ出血熱等の一類感染症の発生状況



エボラ出血熱患者発生時の対応における感染研の役割

・**疑い患者**の血液を検査し、感染の有無を確認

P3施設

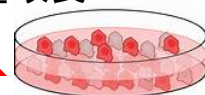
P4施設

確定患者の血液中の（生きた）エボラウイルスについて

- ・詳しい由来を確認
- ・ウイルス量の増減を測り、容体の変化や治療・薬剤の効果を確認
- ・検査法を改良



感染研



検疫所



- ・流行国からの帰国者の問診・健康監視
- ・疑い患者の隔離
- ・**疑い患者**の病院への搬送

診断

治療



疑い患者

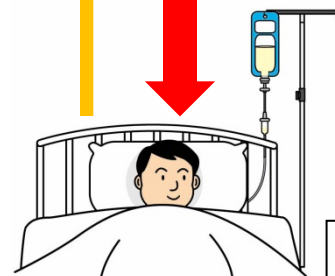


保健所



接触者

- ・**疑い患者**の病院への搬送
- ・患者の**接触者**の調査



病院



- ・**疑い患者**の診断
- ・**確定患者**への医療の提供
- ・二次感染の防止

検体（血液等）の搬送時の安全管理



国立感染症研究所ウイルス第一部 で実施されている検査

ウイルス検出による検査

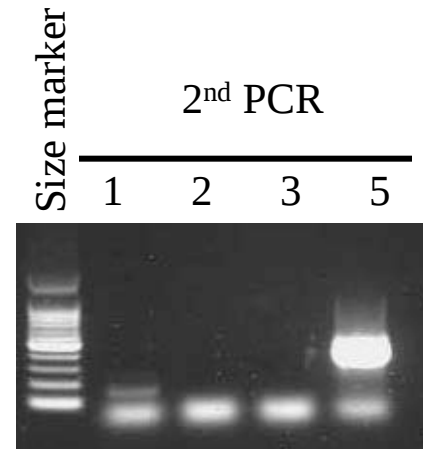
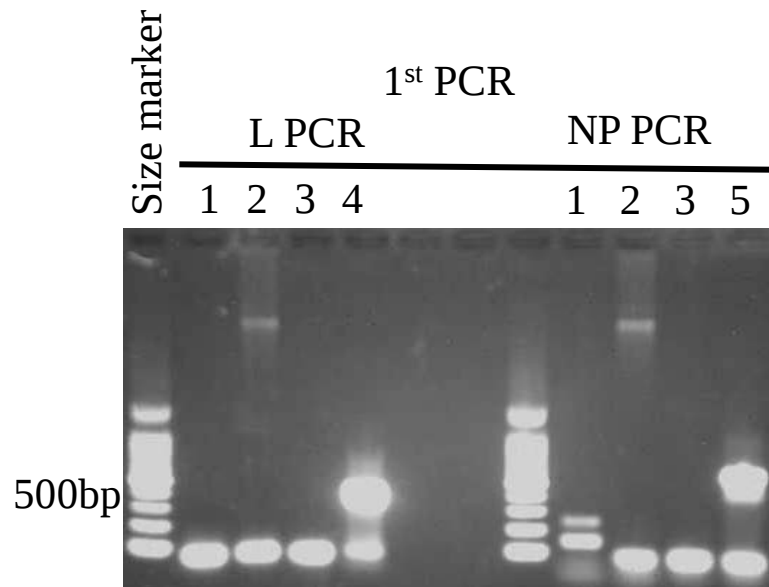
- 遺伝子増幅法等
 - リアルタイムRT-PCR
 - RT-PCR(核蛋白質遺伝子およびRNAポリメラーゼ遺伝子を標的とした検査)
- ウイルス抗原検出検査

抗体検査

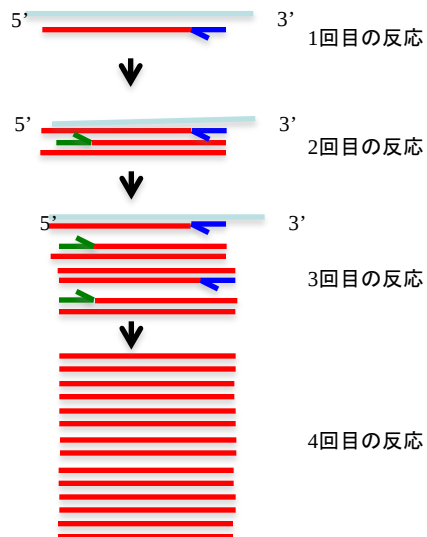
- 組換え蛋白質を抗原としたIgG抗体, IgM抗体検出法
 - ELISA法
 - 間接蛍光抗体法

これらの検査はBSL-3施設で実施されている。エボラ等一類感染症であると確定された場合には検体の中にはエボラウイルス等のウイルスが含まれることが確実になることから、検体はBSL-4施設で取り扱われることの必要性が生じる。

エボラ疑い 患者のRT-PCR法による遺伝子増幅検査



エボラ熱疑い患者検体は陰性



まとめ

- 2014-2015年のエボラ出血熱の流行
- 一類感染症について
- エボラ出血熱患者発生に備えた感染研の役割
- エボラ疑い患者発生時に感染研で実施される検査
 - 遺伝子検査など